

考察および今後の課題

本草種は既存の除草剤による防除は十分可能である。耕種的防除では、多大な労力を要する割に効果は低く、本草は繁殖力も旺盛なので種子の拡散は速く、発生箇所の拡大や人的被害なども今後増加していくと考えられる。そのため、発生段階毎に高い防除効果が期待できる有効薬剤を安全かつ適正に使用し、発生および被害の拡大を防ぐことが重要であると考えられる。

現在、被害が多い公園や校庭、グラウンドなどは除草剤の使用に対して非

常に抵抗がある。当所でも農業に対する正しい認識と安全かつ適正な使用についての啓蒙活動をこれからも行っていきたいと考えている。

また、各地のゴルフ場やその他の場所で発生が見られた場合は、是非情報提供をお願いしたい。

最後に本試験の実施に当たり、各社にご協力頂きました。この場をお借りして感謝いたします。《協力会社》(株) エス・ディー・エスバイオテック、シンジェンタジャパン(株)、住化グリーン(株)、ダウ・ケミカル日本(株)、日産化学工業(株)、日本農業(株)、日本曹達(株)、バイエルクロップサ

イエンス(株)、BASF ジャパン(株)、保土谷アグロテック(株)、丸和バイオケミカル(株)

参考・引用文献

狩野ら 2009. 温暖化の影響か? - やっかいものメリケントキンソウの出現 - 芝草研究 37(2), 108-111.

三浦ら 2011. 静岡県西部におけるメリケントキンソウ (*Soliva sessilis* Ruiz et Pav.) の発生と防除, 芝草研究 40 別 1(大会誌), 30-31.

緑の安全推進協会 2013. グリーン農業総覧.

長田武正 1979, 「原色日本帰化植物図鑑」, 保育社 .pp.34.

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000171168.pdf>

<http://www.hracglobal.com/>



タカサゴユリ (高砂百合)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

ユリ科ユリ属の多年生草本球根植物。園芸種でもあるテッポウユリに酷似するが、茎は太く背が高くなる。花の長さも径も大きく、1本の茎に咲かせる花数も多い。盛夏から秋にかけての時期、日当たりのいい高速道路や国道沿いの法面、駅前の空き地、住宅の庭などで白いユリ園を見かけたら本種である。

漢字では「高砂」をあてる。「高砂」は兵庫県播磨の加古川の河口にある高砂の津であり、能の一つでもある。能で唄われる「高砂や、この浦舟に帆を上げて」は結婚披露宴での定番の唄であり、夫婦和合の意味があるという。「高砂や・・・」は、高砂から松の精を追って船を出し住吉の浜にたどり着くのを唄ったものであるが、さしずめ本種は、台湾から琉球を経て日本にたどり着いたものではあろう。

日本のユリ属草本は他家受粉する種が多い中で、本種

は和合しやすく平気で自家受粉する。作られる種子の数が多く、その多くの種子で生息域を広げていく。しかし、先客の植物が陣取っているところへはなかなか入って行き難く、のり面、空き地、庭などの「新開地」を好むようである。

ところが3年もすると同じところで暮らすのが我慢らなくなり、別の「新開地」を求めて帆を上げる。清楚な白いユリ園は、数年で後人に場所を譲ることになる。

本種はテッポウユリと簡単に交雑する。おかげで本種ともテッポウユリとも見分けのつかない中間型が数多く生まれることになる。台湾からやってきた本種がテッポウユリと和合しながら仲睦まじく生息域を広げていく。その姿にこそ「高砂」の名は相応しいのかもしれない。

タカサゴユリは台湾原産で、名は台湾を表す「タカサング」に由来するという。